

技術研修会の現状と今後の課題

九州地区実験動物技術研修会は、日本実験動物協会（日動協）の通信教育の一環として15年以上実施され、その後、主催が日動協から技術者協会九州支部へと引き継がれて21年が経過するなど、35年以上の長きにわたり継続されている実績のある研修会です。

本研修会は、主催が日動協から離れるに伴い、九州地区を中心とした独自の開催方式へと変化して現在に至っております。

その特徴のひとつは、九州地区独自の研修内容があげられます。すなわち、マウス、ラット、ハムスター、モルモットおよびウサギといった多種類の実験動物を用いて、保定方法から安楽死や解剖に至るまでの基礎的な実技実習が経験できる点、新旧の様々な実験動物に関連する機材の観察とその説明を聞くことができる点、実験動物2級技術者（2級）認定試験に関連する情報を収集することができる点、さらには実験動物関連における我が国の動向の最新情報（動物愛護法等の関連情報を含む）を実験動物の専門家の講師の先生より聴講できる点などが、この独自開催の研修会の最大の特徴となっています。

また、共催という形で日本実験動物協同組合九州支部および熊本保健科学大学といった九州で活躍されている地場企業や大学にご協力をいただいている点も特徴のひとつとなっています。そのおかげで、本研修会は我が国で行われている同様の実技研修会と比較して最も低い参加料での開催を実現化しています。

本研修会は上述したような九州独自のよい面を持ち合わせていると考えますが、その一方でいくつかの将来的な課題も抱えています。

第一に、本研修会の実施内容についての問題です。九州地区における本研修会は、現在、実技的には基本的に2級レベルを中心とした基礎的な内容となっています。技術者協会の他の支部をみてもみても、2級レベルの研修に加えて、実験動物1級技術者（1級）レベルの実技研修会が動物種別に開催されている支部も散見されます。九州地区においてもその要望も聞く必要があるかと思いますが、1級レベルの実技研修会の開催実現化に向けて講師陣の構成も含めて検討すべき時期になっていると考えます。

第二に、本研修会で教えている基本的な実験手技等の技術内容の、日本実験動物協会の指導方針との整合性の問題です。本研修会の講師のほとんどは日動協の実験動物指導員の有資格者ですが、毎年開催されている日動協主催の指導員研修会においては、少しずつ実験手技の内容について修正が加えられたり、新しい手法が追加されたりしています。したがって、今後は日動協主催の研修会や技術者協会の他の支部の実技研修会に九州地区の講師陣が積極的に参加する機会を増やし、様々な情報収集をおこない、そこで得られた情報や知識等を九州地区の本研修会に還元していく必要があると考えています。また、実験動物関連の我が国の最新情報についても、実験手技の内容と同様に講師陣自ら情報収集を行うとともに、今後も我が国の実験動物関連の情報を熟知している講師による講義を実践することによって、より正確で重要な情報をいち早く九州地区の皆様にお伝えできるよう努力していきたいと考えています。

最後に、本研修会の主催である技術者協会九州支部の本部組織である日本実験動物技術者協会が、来年の2017年4月1日付けで社団法人へと移行し、法人としての実質的な運用が始まること、先日の第50回全国総会（川越大会）において決定致しました。したがって、来年度の本研修会は法人化後の最初の研修会となります。

法人化への移行後に最も懸念されることは、これまで技術者協会九州支部が行っていた本研修会等の社会的な活動が、これまで通りのスタイルで開催することが可能かどうかという点であります。現時点では、九州支部における上記の活動は法人化移行後も例年通りの開催が可能との連絡を、本部の理事長より受けておりますので、財政的にも特に大きな変更もなく来年度以降も本年と同様のスタイルでの開催が実施可能であると考えております。

今後は、実技の内容等においても日動協との連携も視野にいれながら、さらには九州地区の実験動物に携わっておられる皆様方の本研修会へのご意見やご要望を聞きながら、本研修会が現状より、より充実したものになるよう講師陣共々努力していきたいと考えております。皆様のご意見を本研修会に反映させるためにも、ぜひ本研修会へのご意見、ご要望を聞かせください。平成28年9月17日（土）

開催場所： 熊本保健科学大学

主任講師

浦野 徹 大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 生理学研究所 研究力強化戦略室 特任教授、獣医師、獣医学博士

講師*

野口 和浩 熊本大学大学院生命科学研究部、生体微細構築学分野助教、

臨床検査技師、医学博士

坂本 龍一郎 笹田神社宮司、御幸保育園理事長、実験動物技術指導員、保護司

荒木 栄一 株式会社LSIメディエンス、実験動物技術指導員

若松 真矢 株式会社新日本科学、実験動物技術指導員

オブザーバー*

松本 珠美 熊本保健科学大学 医学検査学科 准教授、臨床検査技師

大森 正士 株式会社新日本科学、実験動物技術指導員

進村 美穂 一般財団法人 化学及血清療法研究所、実験動物1級技術者

加藤 悟郎 宮崎大学 実験動物1級技術者 * 敬称略・順不同

協力機関**

日本実験動物技術者協会九州支部、日本実験動物協同組合九州支部、熊本大学、熊本保健科学大学、九動株式会社、日本エスエルシー株式会社、株式会社 ケービーティーオリエンタル、株式会社 LSIメディエンス、株式会社、新日本科学 * * 順不同

受講者数

募集人員：16名

受講者数：15名（実技協会員：3名、実動協組合員：9名、非会員：3名）

受講費（テキスト代込み）

会員（日本実験動物技術者協会、日本実験動物協同組合）：4,000円

非会員：8,000円

<協力機関のご協力により、格安にて研修会の開催が実現しております>

研修会使用動物種

マウス（成獣及び幼若動物）・ラット・ハムスター・モルモット・ウサギ



九動株式会社・株式会社ケービーティーオリエンタル・日本エスエルシー株式会社より無償にてご提供いただいております。ご支援誠にありがとうございます。

研修日程

1日目8:30～17:30

①開講式・オリエンテーション

②概論講義（浦野）

動物福祉、法規、環境条件の基準値、実験用動物の分類、遺伝及び微生物的統御の分類等

③動物スライド見覧（坂本）

④展示物の説明（若松）

⑤ビニールアイソレータ（実物有り）と環境因子測定機器の説明（野口）

⑥実技実習（野口、坂本、荒木、若松、大森、進村、加藤）

（検収、検疫、保定法、性別判定、観察、個体識別、体重測定、膣垢検査等）

⑦懇親会

2日目8:00～18:00

①実技実習（野口、坂本、荒木、若松、大森、進村、加藤）

（採尿法、除毛法、投与、採血、麻酔法、安楽死法、解剖等）

②質疑応答

③閉校式（修了証書授与含む）

